

呼 瑪 の 日 食 (3)

公 文 武 彦

3. 観測準備 地磁氣地電流の観測小屋の工事も次第に進捗して、四圍にはスズランの花盛り、一同は毎日早朝——と云つても7時には日はすでに高い——に宿舎を出て現場の監督をする。連日の好天氣に恵まれて工事には頗る都合がよい。呼瑪小學校に入學する爲に遙かに20里の山奥から出かけて來たオロチヨンの子供が悠々と草原を馳驅する姿も勇しい。6月7日自分は縣公署



アムールの魚釣り

満洲美人の魚釣
(釣竿の曲線美を見られよ)

に無線機と恒星時クロノメータ¹を据えて受信の準備をする。子午儀の据付けも8日には終る。この日も近くの金敵^{ノグベン}閣達甲に匪賊が出て之が討伐に向つた一隊に従つた大朝の堀記者がずぶ濡れになつて歸つて來る。黒龍江は水量を増して物凄い。9日より子午線観測開始、9時半頃から星が見え始めて、11時を過ぎると寒さも加はつて夜露に全身ずぶぬれになる。1時半には東天白々に明け渡つて、しきりに鶏鳴が聞える。宿舎への歸途草原に寝る馬に會ふ事再三、獐猛な犬の吠えかゝるには全く閉口する。

之の頃観測用小屋に全く完成し、
10日にはコロナ撮影用の臺も完成す

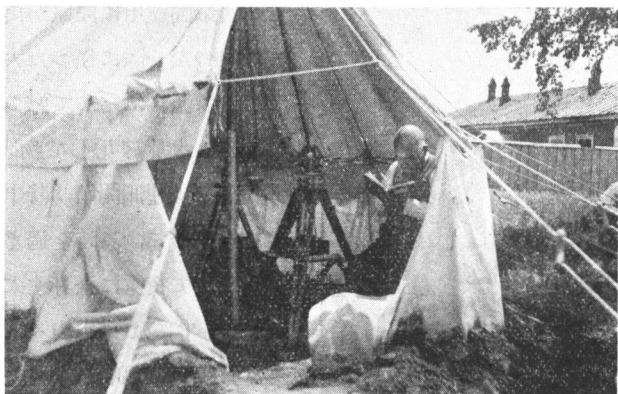
る。この臺は太陽の高度と方位角から設計したもので、其の上に少しの微動部を残して望遠鏡を固定する。以上で天測は終り、コロナ寫眞装置は準備萬端整つて地磁氣、地電流の小屋に器械の据付けも完成したので其後専ら電線約500米の張線と、別に天幕を張つて地磁氣の要素を連続観測する仕事が残

された譯である。

コロナの撮影装置の焦點決定は明方の月を利用して完了したので只日食を待つ許り、一方地磁氣地電流の測定も開始され一同晝夜を問はず全く多忙に日を送つた。此の頃野原には金ポীগ、タンボボ、アヤマ等の満開で芍薬の蕾も次第に大きくなる。16日午前0時半新城博士、辻野氏、上谷氏等の一行も到着され、日食を目前に控へて大いに緊張味を加へる。18日コロナ寫眞機テスト。満點！

4. 日食當日 3時に起床して見ると 東北の方ソビエトの山には朝日が正に出でんとする所、アムールを渡る朝風も涼しく絶好の天氣、再び床に入り6時一齊に起床する。新城、荒木の兩博士を初め一同の顔には喜びの色が溢れる。食後北海道に打電して模様を問合せ旁々大いに氣焰をあげる。

ア
ブ
ソ
リ
ユ
ー
ト
の
観
測



新
城
博
士
夜
を
徹
し
て
観
測

當日仕事の分擔を示すと 荒木博士 總指揮、接觸観測

- 1) 地磁氣、地電流(自記装置)の變化. 千田氏 此の記録は平常のもの及び(2)と比較研究.
- 2) 新城博士、荒木博士、上谷氏 アブソリュート観測機で(1)と關聯した仕事平常時も行ふ.
- 3) 時計係 上谷氏.
- 4) 16ミリ撮影 新城大二郎氏.
- 5) ユニフォーム機に依るコロナ撮影 高倉氏、公文.

愈々皆既の1時間前からユニフォーム機の點檢、初觸が初まつて縣公署から現場に運び極力溫度變化に依る焦點距離の變化を考慮する。新城博士はアブソリュートの天幕の南側を外して雙眼鏡を片手に、折柄の飛雲を見て心配

する一同を勵ます。刻一刻太陽は三日月形に、四圍の觀衆も全く静まりかへつて警官の民衆を整理する聲のみが聞える。荒木博士はピストル片手に缺け行く太陽を覗き、糸の様な太陽が僅かに残る。一同の緊張は益々加はる。高倉氏と自分はすでに部署につき、シャツタ1片手に荒木隊長を凝視する。轟然一發！ 愈々皆既だ！ 上谷氏の讀みあげる時計の毎秒の音のみ聞えて全く無我夢



上谷、新城、公文、荒木博士、高倉、大松

皆既を待つ 右前方に見えるがコロナ機

左方に見えるが16ミリ撮影機

中、2枚3枚引くシャツタ1の音に辻野氏が時間を記録して下さる。7枚の撮影を終へて高倉氏は悠々生フィルムに寫つたコロナを眼める。未だ位置は大丈夫、更に撮影續行、計10枚、もう終りだ。最後の餘興に1枚、計11枚を撮つて悠々凱歌をあげる。2回の日食觀測に200%の成巧を収めた荒木博士、初めて日食を見る新城所長を中心に一同思はず萬歳を唱へる。日食がすめばもう記事も無い。最後に最後迄御厚意と御援助を賜はつた滿洲國官民の方々及び日本駐滿機關、滿鐵社に深く感謝の意を表してこの稿を終る事にしよう。只残されたのは地磁氣、地電流方面の日食後の記録調査。この頃滿目の草原には白、紅とりどりの芍藥が咲き亂れて滿目之皆百花!! (完)

太 陽 面 活 動 す !!

11月上旬以來、太陽面は頗りに活況を呈し、黒點群、數の夥しい出現をみせてゐる。因みに去る11月6日の木邊成麿氏の觀測によれば、黒點相對數200以上にも達してゐると。然し、小黑點の多數出現で、觀測は特に注意を要する、